

いまとこれからを勝ち抜く

DTP & **新**印刷ワークフロー 実践ノウハウ

キーワード別

- Mac OS X
- OpenTypeフォント
- InDesign
- Windows DTP
- XML
- RGB色管理
- PDFワークフロー
- 1bit TIFF
- 雑誌広告基準カラー
- 第二世代インクジェット校正
- リモートプルーフ
- カラーマネージメント
- CTPワークフロー
- プリント・オンデマンド
- 小ロットカラー印刷
- JDF/CIP4
- オープンワークフロー

ビジネスモデル構築の
ツボ 教えます。

DTPとプリプレスと印刷に強くなる本

PREMedia
プリメディアシリーズ
画像技術情報51号

Part 19

I

2003 JUNE
ISSN1344-4255

印刷出版研究所



美創印刷

●CTPを持たずに「CTP企業」●

ノウハウを蓄積してからCTP導入へ メリットは「ズバリ、納期短縮と外注費減」

●必要最低限の設備でCTPが活用できる

「ウチのような年間売り上げ5億円くらいの会社がCTPシステムを導入するのは微妙。年商10億円前後はないとキャッシュフローが追いつかないでしょう」と言い切る美創印刷株式会社の村上一宏社長は、「当面はCTPを導入せずにCTP企業になる」道を選択をした。

2002年9月からティー・ピー・シーの提案するコラボレーション・フロー「GIGA GATE Servise」への参加を開始。エプソンプリンターと「rosetteStar Proof」を組み合わせて、ティー・ピー・シーとの間でリモートプルーフを行い、ティー・ピー・シーで出力したCTPプレートを宅急便で送ってもらって自社で印刷するという流れだ。「あたかもCTPシステムを設備したかのように仕事ができる。最高ですね」と、コラボレーションの効果を十分に感じているようだ。

コラボレーションに参加するまでCTPは未経験だったが、わずか4ヵ月で月200版をCTPでこなすまでになった。これは美創印刷全体の約半分の版数だという。

美創印刷は化粧品などの商品パッケージの制作を長年手がけてきた印刷・紙器加工業者。東京・深大寺に2つの工場を持ち、刷り、抜き、箔押し、エンボス、折り、貼りのユニークな立体構造の商品を生み出している。社員30人が

常に面白いアイデアがないかを追究しているという一風変わった社風。4年前に米国特許の「フラッパー」をロイヤルティー支払って日本で製造するための契約を1年がかりで結び、これがウケて需要を伸ばしている。

村上社長がコラボレーションへの参加を決めたのは、「必要最低限の設備でCTPを活用できる、これは面白い」と感じたからだ。「おまけに、ウチではちょうどネットでのデータの送受信を始めたばかり。それをWAMINETというセキュリティの高い専用回線でやりとりができるのなら」と「気軽なノリ」だったという。

実践に当たって社内でCTPや1bitTIFFなどの技術的な説明をしたが、「社員はあまり興味を示さなかったので、試みにやってみよう」とティー・ピー・シーにCTPプレートを出してもらい印刷現場に持っていった。「印刷オペレーターはいつもと版の色が違うと言いながら印刷機にかけたら、今までのPS版と変わりなく刷れてしまったんです。そして「これがCTPだ」と説明すると現場は納得。実にスムーズ、「すごく簡単な」スタートだった。

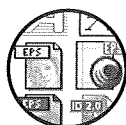
ただし「CTPには必要不可欠」ということで1年前からロットゲイン管理を実践し、ハイデルベルグ印刷機の標準数値に合わせてきた。またプリンターと印刷機の色調調整も



CTPを導入するにはまだ出力版数が月産200版と少ない。当面はティー・ピー・シーとコラボレーションを組みながら、ノウハウを蓄積して出力版数を増やすことに勤しみたいという村上一宏社長。広告代理店勤務の経験を生かして、型にはまらない経営姿勢が新鮮。



日本で美創印刷だけが製作できる「フラッパー」は、ユニークな形状が受けて徐々に需要が増えている。



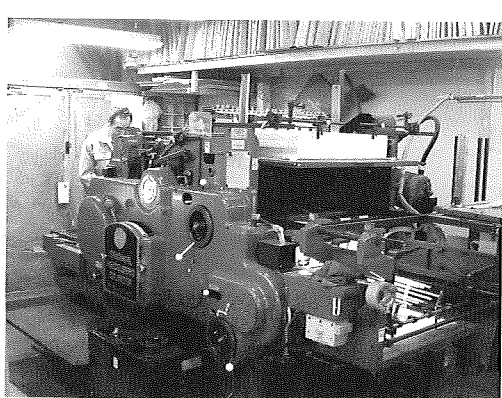
美創印刷

メーカーが入念に行う、など準備は着々と積み重ねてきた。

●顧客に余計な心配かけずにプリンター校正／CTP利用

美創印刷では顧客にプリンター校正やCTPを活用しているとは伝えていない。だから当初、CTPを使うのはアート紙系かコート紙系の仕事、しかも「このシステムで品質が確実に保証できる顧客と製品」を選んでいた。「プリンター校正をあたかも従来の校正刷りと同じように」顧客に持っていき、OKをもらってCTP出力に持っていかなくてはならないからだ。いくらrosetteStar Proofで網点が出るとは言ってもプリンター校正なので、顧客も余計な不安をかかえクレームが付くかもしれない。そうになったら納期にも響いてくる。

「ぶっつけ本番で校正刷りを持って行ったら、顧客はいつもと違う紙だけれど、これだけ色が出ていればいいかと言ってOKを出してくれた」という。フラッパーの仕事からCTPの活用を始めたので、校正刷りを持っていくと顧客は



さまざまな抜き型を用意しての抜きの作業。



ユニークな加工製品が生まれる作業現場。奥にあるのは日本に1台しかない、特殊な折り・貼り機。

「色もさることながら展開した形状の方も重要視していただいたこと」も幸いした。プリンター校正と、従来のプラットフォーム校正の違いは問題にならずに事が進んだ。今はカタログや冊子などもプリンター校正とCTPを活用して作っている。

美創印刷としても、複雑な形状だと画像の配置を間違ってしまう場合もあるので、プリンター校正とCTPに切り替えたことで再出力が手軽にできて楽になったという。「校正のやり直しを色校正業者に頼んでいたら、フィルムの再出力から始めなくてはならない」ので中1～2日は必要だ。それがティー・ピー・シーに頼めばプリンターでもCTPでもその日のうちに出力できる。

ただ、ファンシーペーパー系の特殊用紙はプリンター対応しないので、従来通りの方法で製版している。その校正も今では、CTPで4版出力して本機校正する方式に切り換えた。「版が無駄になっても速い方がいい」からだそうだ。とはいえ本機校正の前にプリンターで内校正をしているので、CTP出力に切り替えてから校正でダメが出たことはまだ一回もない。

最近CTPを使っていることを武器に営業展開を行うと、顧客から請求額の値引きを要求されることもあるという。が、設備導入のトータルコストはプリンターとMacintosh、専用ネット回線の契約料を合わせて200万円程度なので、値引き要求も苦にならない様子。

●外注費が4分の3になった

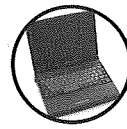
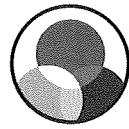
村上社長が特にメリットとして感じているのは「納期短縮」。顧客から入稿されてきたデータを修正して製版に外注していると「どう頑張っても、中1日はかかる」。このコラボレーションだとその日のうちに刷版ができてしまうし、夕方、ティー・ピー・シーにデータを送っておけば翌日の朝10時にはプレートができています。急ぎであれば直接、取りに行けばいい。

顧客は校正を早く見ることができるので喜んでくれるし、美創印刷では後工程に余裕ができるので、抜きや加工など重要な部分に力が注げて安定した仕事ができる。

また外注費が大きくダウンした。全体の半分をCTPに切り替えたので製版代が半分になり、ティー・ピー・シーからの請求額がちょうどその半分くらい。つまり外注費が4分の3になった。「このコラボレーションは弱小印刷業者の駆け込み寺だ」と村上社長は感動しているのだそうだ。

●RIP処理のノウハウが得られるメリットも

美創印刷では、社内に関連のデザイナーがデザインする



仕事が2割、残り8割は顧客側がデータを作成してくる。顧客からのデータは「9割方すんなり処理できない。修正や写真分解のノウハウを積みなくてはダメだと思っていた矢先」に、この話を聞いた。

製版に出す前にオペレーターがデータのチェックをしているが、ティー・ピー・シーに送ればダブルチェックしてもらえる。しかも今までは製版業者にお任せだったが、RIP処理する時の問題点など「ウチで判らないことを教えてもらえる」。

「ずいぶんですが、その辺りのノウハウをこのコラボレーションを組みながら自分たちも得たいと思っています」。

またティー・ピー・シーはPDFを基準にしたフローを推奨しているが、美創印刷ではこれまでPDFは使っていなかった。コラボレーションを組み始めた段階からPDFに取り組み始めたので、近いうちにデータ送信フォーマットとしてPDFを使っていく考えだ。「PDF化した、しっかりしたデータを作ればその後の処理がスムーズに行きますし、RIP処理と出力の時間をプラスするだけで作業時間が計れるのでスケジュール管理も的確になります」。

あらゆるノウハウを蓄積したらCTP内製化に踏み出すのが、美創印刷の当面の目標だ。

●周辺地域でのコラボレーションも…

さらに村上社長は「初めは内製化しか考えていなかったんですが、この方法が面白くなってきたので、ウチが核になって周辺地域で同じようなコラボレーションが組めないかと考え始めている」ともいう。ただ、「外注費や売り上げの数字から計算すると実現できそうな錯覚に陥るんですが、オペレーターやスキルも必要だと考えると、あまり迂闊にはできない。少なくとも月400版以上を常時確保できるようにするまでは無理だろうという結論に、今の段階では達しています」と慎重な構えだ。

が、その新展開も視野に捉えているようでもある。美創印刷が地域の駆け込み寺になる日もそう遠くないかもしれない。

※フラッパー：1枚の紙からできた印刷・加工品でありながら、内側から外側へ開くと別の面が見え、バタバタとめくっていくと合計4つの面が見える。1枚の紙に両面印刷を施し、抜き型で抜きをすると外側が切り取られ内側に切れ目やミシン目の入った箇所ができる。これを折って、4箇所に糊を付けて貼り合わせて作る。

●美創印刷とティー・ピー・シーとの作業の流れ



●美創印刷の主な設備

校正：rosetteStar Proof + エプソン MC-10000
 印刷：5色機＝ハイデルベルグ MOF1台、2色機＝同 SORKZ1台、1色機＝同 KORD1台
 その他、打ち抜き・箔押し・エンボス・打ち折り・貼り加工、特殊紙器加工機械など多数